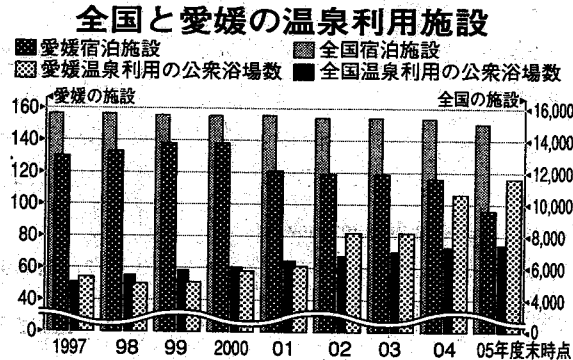


今回は環境省が公表している温泉利用状況データを使って、温泉を利用している施設（温泉利用の宿泊施設と公衆浴場）をご紹介します。

愛媛県内の宿泊施設は2006年3月末現在で96施設ありますが、しまなみ海道が開通した1999年度末時点と比較すると、わずか6年の間に3割も減少しています。全国は3%の減少でしたので、愛媛県での減少の大きさがよくわかります。ただ小規模旅館などの転廃業が多かったためでしょうか、収容人

温泉利用施設数



員では6%減にとどまっています。なお、年間平均定員稼働率を試算すると2005年度は34%（全国平均は27%）となり、これは全国の中では第8位に相当します。

温泉利用の公衆浴場数では、上記と同じ期間で全国では約3割増加しています。温浴施設ブームや福祉施設での温泉利用の増加などがその要因ではないかと推察されます。そのような中、愛媛では54施設から116施設へと2倍以上の伸びを示しています。温泉という身近な天然資源が、多くの施設で利用されるようになってきていることが分かります。

「蛇口からポンジュースが出る」ではありませんが、「家庭の蛇口から温泉が出る」—そのような未来の住環境を想像しても良いかもしれませんね。

（日本政策投資銀行松山事務所・門松功）

身近な資源伸び2倍